

# シェーカー教の「集まり」の解明

レジュメ構成  
1. 目次  
2. 論文構成  
3. 註  
4. 参考文献  
5. 図版出典

2019.02.01

修士論文最終発表会

中谷礼仁研究室 The Believers セミ  
渡邊慧子

## 1. 目次

### 【序論】

- 0-1. 研究背景
- 0-2. 研究目的
- 0-3. 研究方法
- 0-4. 既往研究

### 【本論】

- 第1章 神の国の興り
  - 1-1. はじめに
  - 1-2. 建国と開拓
  - 1-3. アメリカのプロテスタンティズム
  - 1-4. 結び
- 第2章 大覚醒とアメリカ
  - 2-1. はじめに
  - 2-2. 第一次大覚醒
  - 2-3. 第二次大覚醒
  - 2-4. 小結
- 第3章 シェーカー教のあゆみ
  - 3-1. はじめに
  - 3-2. 1774-1799年：アン・リーとそのこどもたち
  - 3-3. 1800-1820年：マザー・ルーシーの時代
  - 3-4. 1821-1837年：傍系指導者の誕生
  - 3-5. 1837-1860年：信仰復興運動と世俗化
  - 3-6. 小結
- 第4章 シェーカー教の集会空間① 環境
  - 4-1. はじめに
  - 4-2. 教理と参加者
  - 4-3. Meeting House
  - 4-3. Meeting Room
  - 4-4. Feast Ground
  - 4-5. 小結
- 第5章 シェーカー教の集会空間② 行い
  - 5-1. はじめに
  - 5-2. 音楽的特徴
  - 5-3. ダンスの型の変遷
  - 5-4. 小結
- 第6章 考察
  - 6-1. はじめに
  - 6-2. かたちのリバイバル
  - 6-3. 円形 march とシェーカーの親和性

### 第7章 結論

### 【註】

### 【図版出典】

### 【参考文献】

### 【巻末資料】

## 2. 論文構成

### 【序論】

#### 0-1. 研究背景

最盛期には、25 の共同体で約 4000 人が暮らしていたシェーカー教。当時から、その生活様式や体を震わせる独特な礼拝方法である集会 (meeting) は、当時のアメリカの多くの人々の関心を引くものだった。

シェーカー教に関しては、社会人類学、アメリカ国内史、宗教史学、建築の分野ですでに数多く研究されており、その内容は多岐に渡る \*1。

また、シェーカー教の集会 (meeting) に関する研究は、meeting house そのものや、教義との関連について述べられたものがある \*2 が、これらの研究では、集会の運営方法や礼拝方法に焦点を当て、礼拝や生活の一部として取り上げられるのみにとどまっている。

第二次大覚醒によるシェーカー教への影響は、西部共同体の創立や礼拝方法に関して既往研究ですでに明らかにされている \*3。しかし、それを空間的に解明したものはまだ見られない。シェーカー教が隆盛した時期から今日まで、多くのひとびとがシェーカー教に関心を抱くこの熱狂の空間を第二次大覚醒との関係から明らかにしようと試みた。

#### (1) 既往研究の蓄積

共同体の歴史、組織構成、家具などのデザインに注目した研究が豊富。

#### (2) 空間的把握

シェーカー教の礼拝やダンスの情報は主に文字で記録されている。空間との関係から考察したものがない。

#### (3) 直感

第二次大覚醒のシェーカーへの影響は、集結だけではないのではないか。

#### (4) 動機

共同体として形成と持続に成功した理由を、「集まり」から分析することを試みる。

#### 0-2. 研究目的

アメリカの集まりを背景にもつシェーカー教の2種類の「集まり」から、その形成の背景や要因を探る。シェーカーの共同体としての成り立ちを「集まり」から分析し、ひとつの統一性 (unity) として形成していった過程を明らかにする。また、第二次大覚醒との関連性を明らかにしたうえで、シェーカー共同体における集まりの構造とメカニズムを考察する。

#### 0-3. 研究方法

以下の順で、アメリカというエヴァンジェリカル運動を背景に持つシェーカー教の「集まり」の特性を明らかにする。

第1章：アメリカにおける集まりの根源

第2章：アメリカにおける集会の根源

第3章：シェーカー教の共同体のかたち

第3章：シェーカー教における集会のかたち 環境

第5章：シェーカー教における集会のかたち 行い

#### 0-4. 既往研究

##### (1) アメリカにおける第二次大覚醒

(i) 森本あんり (2012) 『アメリカ的理念の身体』 創文社。

(ii) 『神の国アメリカ』

##### (2) シェーカー教の変遷

(i) Edward Deming Andrews, (1953) *The People Called Shakers*, Dover Publications.

(ii) Stephen J. Stein (1992) *The Shaker Experience in America*

(iii) Stephen J. Paterwic (2017) *Historical Dictionary of the Shakers*, Rowman & Littlefield.

(iv) Priscilla J. Brewer (1986) *Shaker Communities, Shaker Lives*, University Press of New England.

##### (3) 第二次大覚醒とシェーカー教

(i) Mariam S. Houchens, (1971) *THE GREAT REVIVAL OF 1800*, *The Register of the Kentucky Historical Society* Vol. 69, No. 3 (July, 1971), pp. 216-234.

(ii) Thomas Whitaker, (1982) *The Gasper River Meeting House*, *The Filson Club History Quarterly* 56 (January 1982): pp.30-61.

##### (4) シェーカー教の礼拝

(i) Daniel W. Patterson (2000) *The Shaker Spiritual*, New York, Dover Publications.

45 年以上にわたってシェーカー共同体の音楽やダンスについて研究し、保存活動にも取り組む筆者によって、曲やダンス方法が収集された一次資料に近い書籍。先行研究を補完しシェーカー教の歌やダンスを種類別、経年的にまとめている。また、第二次大覚醒がシェーカー教に与えた影響として、礼拝に歌詞のある曲をもたらししたこと (p.101) を指摘する。などの記述も見られる。

(ii) James F. White (1989) *Protestant Worship, Kentucky*, Westminster John Knox Press.

アメリカにおけるプロテスタントの礼拝方法についてまとめた論文。すべての宗派の礼拝には、共通して環境や条件 (circumstance) とその内容 (activity) という2つが参加者によって媒介されているとする。本研究では、シェーカーの礼拝空間をこの2つにわけて分析を行う。

(iii) Joanne H. Jastram, (1982) *The Complexities of Shaker Dances*, *The Shaker Messenger*, Fall 1982, pp.7-9.

### 【本論】

#### 第1章 神の国の興り

17世紀アメリカという新天地に行き着いたピューリタンたちは、まずコミュニティの中心である教会を建てた。そして毎週礼拝のために集まり、「神の国」の建設という目標を共にしていた。しかし、ピューリタンを親に持つ二世代は、信仰熱心な親を間近で見ながらも自らはその機会に恵まれず、政治的集まりには教会員として正式に認められなければ出席できないため、未回心は喫緊の問題であった。そうした人々は自らを半人前と見なしており、神との直接的な結びつきや宗教的恍惚を体験したいという欲求が高まった。さらに、互惠関係という特殊で実利的な神との契約関係のもと、エヴァンジェリカル運動が活発化していった。

#### 第2章 大覚醒運動

##### 2-2. 第一次大覚醒

人口の急激な増加と移民という社会背景のもとに起きた信仰復興運動。当時移民が多く入ってきた港町で、リバイバリ

ストになる者もいた。

この時に説教台を持ち歩き、どんな条件でも野外で伝道できるような工夫をする者が多かった \*5。



図1 第一次大覚醒の野外集会



図2 移動式説教台

##### 2-3. 第二次大覚醒

第二次大覚醒は、西部開拓時代で広がりゆく国土を背景におこった信仰復興運動である。移民の増加や西部開拓民による宗教への欲求という社会的要因と、広い土地という地理的要因により、大規模な「集まり」を形成した。1805年の3月から1820年代半ばにかけて、シェーカー教も信者獲得のために参加している。

第二次大覚醒の最盛期として1820~1830年代を中心に語られるが、西部では1790年末にはすでに大覚醒が興っていた。約2万人もの人々が集まったこのミーティングは、宗教的な渴望を感じていた未開拓の土地を進む者たちに熱狂的に受け入れられた。

参加した教派は長老派、メソジスト、会衆派などのニュー・ライト派であり、第一次に引き継ぎ、感情に訴える説教をあらゆる教派が集まって集会を開いた。これが **Camp Meeting (野営集会)** である。はじめは、長老派教会の James McGready 牧師の Gasper River Meeting House であった。1799年のこの集会を皮切りに爆発的な動員数を誇り、1820年には主導が長老派からメソジスト教会に移ることで **Tent Meeting (天幕集会)** へと発展していく。1840年代には形式が整い、複製可能となった集会は、娯楽の要素を強めてアメリカ各地へ展開した。

#### 第3章 シェーカー教のあゆみ

以下3点の視点で共同体の変遷を外観し、共同体の構造がどのように形成され、どのように外部から信者を得ていたのか中心にみていく。

① 信者の獲得・伝道活動

② 集結と集会

③ 共同体内での活動 (組織構造や規則、指導者の方針)



図3 シェーカー共同体の位置 (1826)

### 3-2.1774-1799年：アン・リーとその子どもたち

- ①NY 周辺を巡回伝道 (1881-1883)。激しい迫害に遭いながらも多くの回心者を得る。
- ②定期的な集会が行われるようになる。短期間一般公開が実施されるが、Meeting House の建設がはじまると同時に共同体の地盤固めのために中止される。
- ③ジョセフ・ミーチャムによって、共同体内の生活や教会としての序列を決める組織構造 (Order) が確立される。

### 3-3.1800-1820年：マザー・ルーシーの時代

- ①伝道活動：第二次大覚醒集会への参加によって多くの信者を得る。西部共同体の設立 (1805) が行われ、東部から遠隔の地へミニストリーが送られる。集結までに時間を要す。
- ②礼拝に歌詞がつく (①③の影響)。
- ③第二次大覚醒の集会参加のために聖歌集『Millennial Praises』を出版 (1813)。音楽とダンスの保存・復興運動 (1820-1840s) がふたりの教徒 Hasekell と Youngs によって行われる。

### 3-4.1821-1836年：傍系指導者の誕生

- ①1800 年代に受け入れを開始した孤児が大人になって数多共同体をさる。人口の急激な増減を経験する (1830s-1860)。
- ②Public Meeting が盛況となるが、参加者の数と比例して中傷が増加する (1820-1830)。
- ③アン・リー直系の指導者がいなくなる。教理と生活の規則をあらわした『Millennial Laws』を発刊 (1821)。

### 3-5.1837-1860年：信仰復興運動と世俗化

- ①急激な人口の減少により礼拝が激減。「集まり」が世俗化し、様々な文化活動が行われる (1860s-)。
- ②集会の公開を中止し、野外礼拝の実施 (1842-1846)。
- ③信者の退去食い止めのために共同体内の信仰復興運動「Era of Manifestation」(1837) が起こる。

以上より、情報伝達やルールづくりが円滑に行えるしくみが初期から整っており、共同体の方針は指導者に判断が委ねられ、1800 年代からは共同体の拡大がおこり礼拝方法が展開していくことを明らかにした。

また、1820 年からは絶妙なバランスによる、Public Meeting を通した世俗との交流が行われ、共同体内の信仰復興運動は 1830 年代の信者の入れが替え激しくなったことに因るものと指摘した。

## 第4章 シェーカー教の集会空間① 環境

シェーカー教の礼拝の種類は 4 つであり (図 4)、その参加者はシェーカー教徒と World (世俗の人々) である。World は、参加に際して厳粛にマナーを守る必要があり、シェーカーが礼拝する様子を傍で静観する存在であった。

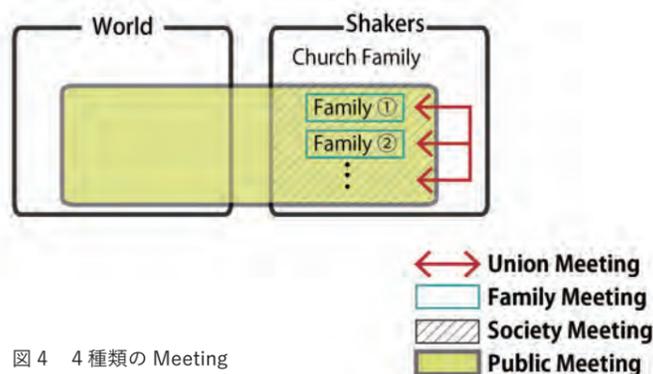


図 4 4 種類の Meeting

本章では、シェーカー教の礼拝空間であった Meeting House (集会用)、Meeting Room (集会用)、Feast Ground (野外礼拝用) についてその空間の変遷と形態の特色を分析した。

### 【分析結果 I】

- ①年代による区分  
初期共同体のもの：11 個 → 初期型  
西部共同体のもの：5 個 → 西部型  
信者増加によって建てられたもの：6 個 → 中期型  
1820 年代半ばに集結した共同体のもの：3 個 → 後期型
- ②様式と構法による分類  
→ オランダコロニアル (初期型) とニューイングランド様式 (初期型以外)
- ③素材による分類  
→ 西部の 2 つのみ異種：木材の不足が原因。

### 【分析結果 II】

既往研究や図面から、【分析結果 I】の①のグループごとにダンスフロアの床面積の比較を行った (図 5,6)。

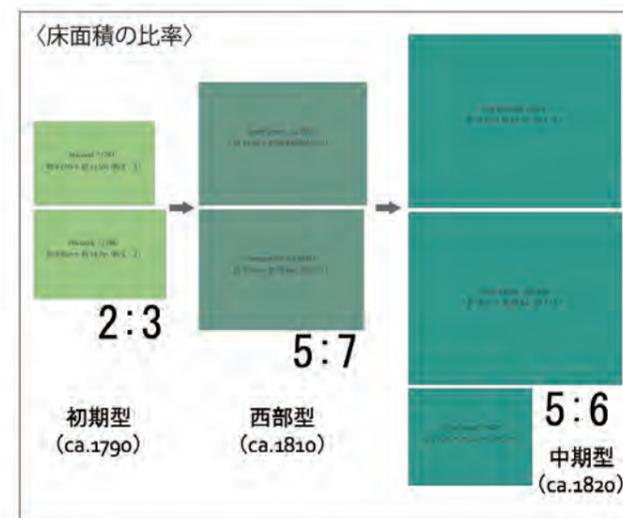


図 5 床面積の変遷

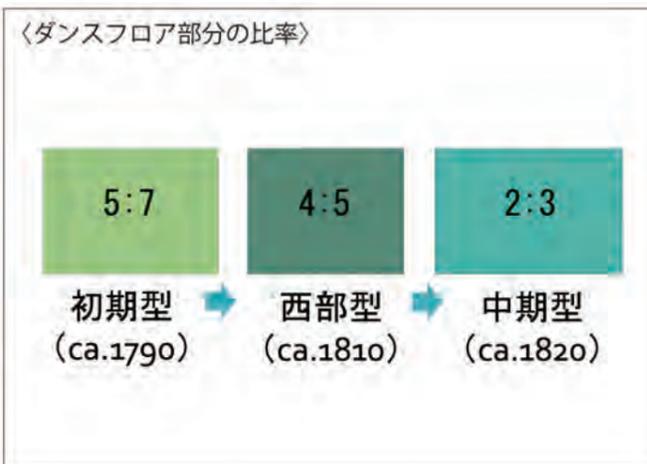


図 6 ダンスフロアの変遷  
1800 年代はじめに西部で集結した共同体の Meeting House と初期型の Meeting House のフロア比率が横長という点で類似しており、一度正方形に変化したものが長方形に戻ったことを指摘した。

## 第5章 分析：シェーカー教の集会空間② 行い

本章では、シェーカー教の礼拝を環境 (circumstance) と行い (activity) の 2 つの面からシェーカーで行われた集会を分析し、総合的な空間として変遷を追った (図 7)。

### 第6章 考察

- 6-1. はじめに  
第 4・5 章の分析結果を合わせると、ダンスと Meeting House のフロアの比率がリバイバルを起こしていることを指摘した。
- 6-2. かたちのリバイバル  
6-1. の指摘と、この時代には一部の教徒と共同体の指導者による音楽保存活動や旧式の礼拝方法の復興が試みられていたことから、ミニストリーの意図的な空間の操作が行われていた可能性を指摘した。そしてそれは円形 march と列系のダンスの関係に見出すことができる。
- 6-3. 円形 march とシェーカーの親和性  
円形 march がシェーカーの指導者以外から頻りに発案されており、亜種は無数にあることを Patterson(2000) は指摘している。さまざまな背景や年齢の者が暮らし、共同体の unity のために行う礼拝では、円形 march はかなり適したものであり、教徒は聖霊信仰のもとみな平等に発案する機会が与えられていたことから、シェーカー教における礼拝で円形 march の歌が多く保存されているのではないかと考察した。

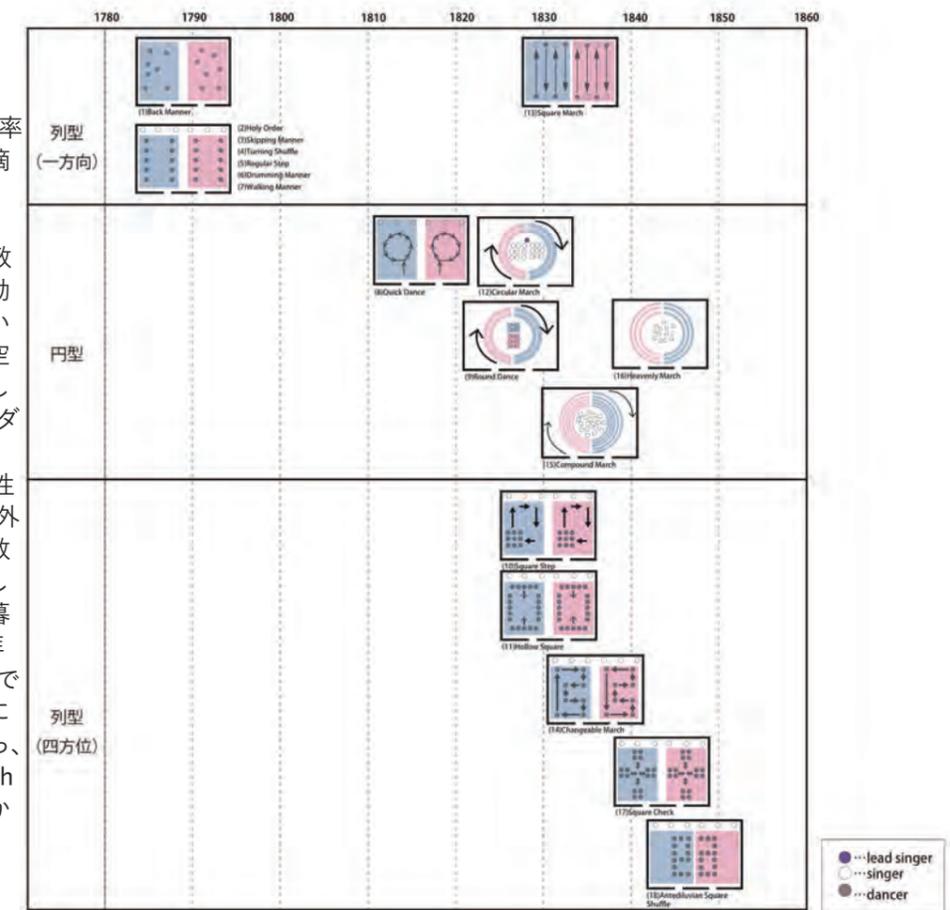


図 7 ダンスの型の変遷

## 第7章 結論

シェーカー教の歴史の変遷と礼拝空間を環境・活動内容にわけること、その形態と共同体のリバイバルが同時に起きていることを明らかにした。また、既往研究ですでに指摘されているシェーカー教の第二次大覚醒への影響が、教理と組織構造を背景とした空間変容にも及んでいることを指摘した。

### 【参考文献・図版出典】

- \*1 アメリカでは地域文化史から薬草学などまで、幅広く研究されている。
- \*2 著名なシェーカー教研究者には、『The Shaker Experience in America』の Stephen J. Stein や、『Shaker Architecture』の Herbert Schiffer らがいる。
- \*3 Daniel W. Patterson (1979) 『Shaker Spiritual』p.111,p.133 や Edward Deming Andrews (1953) 『The People Called Shakers』p.70 などが挙げられる。
- ・ Edward Deming Andrews (1953) The People Called Shakers, Dover Publications.
- ・ Stephen J. Paterwic (2017) Historical Dictionary of the Shakers, Rowman & Littlefield Publishers.
- ・ Catherine L Carter (2014) Heaven On Earth: The Shakers and their Space, Geographies of Religions and Belief Systems, Volume 1, Issue 1, University of Maryland.
- ・ Mariam S. Houchens (1971) THE GREAT REVIVAL OF 1800
- ・ Edward Deming Andrews (1940) The Gift to be Simple: Songs, Dances and Rituals of the American Shakers. Courier Corporation
- ・ Julia M. Neal (1975) By Their Fruits: The Story of Shakerism in South Union, Kentucky, Porcupine Press.
- ・ E.D. Andrews (1942) The Dance in Shaker Ritual
- ・ The Register of the Kentucky Historical Society Vol. 69, No. 3 July, pp. 216-234
- ・ Lamson, David R. 1848) Two Years' Experience Among the Shakers
- ・ Richard McNemar (1807) The Kentucky Revival: John W. Brown
- ・ Thomas Dionysius Clark (1968) Pleasant Hill and Its Shakers, F. Gerald Ham, Shakerstown Press,
- ・ 森本あんり (2015) 『反知性主義 アメリカが生んだ「熱病」の正体』新潮社。
- ・ 藤本龍児 (2009) 『アメリカの公共宗教 多元社会における精神性』 NTT 出版
- ・ 阿部斉、有賀弘、本間長世、五十嵐武士 (1982) 『世紀転換期のアメリカ』東京大学出版会：阿部斉「アメリカ社会の発展と宗教」pp.29-49
- ・ フランクリン・H・リッテル、柳生望、山形正男訳 (1974) 『アメリカ宗教の歴史の展開』
- 図 1 Great Awakening : [https://www.google.com/url?sa=i&source=images&cd=&ved=0ahUKewizzlq695jgAhWa\\_YMKHcSUceMQMwGKAcwBw&url=https%3A%2F%2Fallthingsliberty.com%2F2016%2F08%2Fgreat-awakening-american-revolution%2F&psig=A0vVaw2eDphPii5o3ir23IU2JhhW&ust=1549055471658326&ictx=3&uact=](https://www.google.com/url?sa=i&source=images&cd=&ved=0ahUKewizzlq695jgAhWa_YMKHcSUceMQMwGKAcwBw&url=https%3A%2F%2Fallthingsliberty.com%2F2016%2F08%2Fgreat-awakening-american-revolution%2F&psig=A0vVaw2eDphPii5o3ir23IU2JhhW&ust=1549055471658326&ictx=3&uact=) (2018.11.10 閲覧)
- 図 2 ジョージ・ホイットフィールドの説教台 - [https://www.encyclopediavirginia.org/media\\_player?mets\\_filename=evm00003045mets.xml](https://www.encyclopediavirginia.org/media_player?mets_filename=evm00003045mets.xml) (2018.11.10 閲覧)
- 図 3 中島拓也作成
- 図 4 Encyclopedia Virginia "Camp Meeting" - Plan [https://www.encyclopediavirginia.org/media\\_player?mets\\_filename=evm00003300mets.xml](https://www.encyclopediavirginia.org/media_player?mets_filename=evm00003300mets.xml)
- 図 5 筆者作成
- 図 6 筆者作成
- 図 7 筆者作成